

内科秘録

十

黄消白尿遺強
胖渴濁血精中
病

汗澄雷震伏氣凍死驚怖死自縊死鬼厭

十武9信
777
10



信
777
10

內科秘錄卷之十

目錄

黃胖

消渴

白濁

尿血

遺精

強中病

汗證

雷震死

內科秘錄

卷十 目錄

。

自註亭藏

伏氣死

凍死

驚怖死

自縊死

鬼魘

内科秘録卷之十

水戸 棗軒本間救和卿 著

黄胖

黄腫病

胖病

黄胖ハ古ニ見ヘス元末以降ノ諸家其證治ヲ論シタ
 レ氏是ヲ黄疽ニ混シテ明辨ナシ或ハ黄疽ト同病
 ニ心得テ茵陳蒿ヲ用ヒタル者アリ捧腹絶倒スヘ
 キヲナリ黄癰ト黄胖ノ其因自ラ異ナルヲ當ニ水
 炭ノミナラスニ病氏ニ黄ヲ以テ稱スレ氏黄疽ハ



發黃ニシテ黄胖ハ萎黄ナレハ其黄自ラ同シカラ
 ス不~~レ~~黄疽ハ初~~レ~~發ヨリ白睛黄^カミ黄胖ハ久ヲ歷ルト
 雖^レ氏白睛變セスニ證ノ同病ニ非ル^レ一^レ目瞭然ト
 シテ知ルヘシ

病因血虚ナレ^レ氏血證脾病ノニツアリ時珍ノ本草綱
 目綠礬ノ條ニ見ヘタリ脾病ハ常ニ粗糲ヲ食スル
 者脾胃自ラ調和セス血液稀薄ニナリ榮養ヲ惰^レリ
 テ此病ヲ發ス産後下血スル^レ過多及^レ暴漏或ハ
 衄血吐血腸風金創出血ノ類亡血過多ナル^レ氏ハ皆
 此證ヲ發ス然^レ氏其因殊ナル^レ氏ハ之ヲ假黄胖ト

稱シ脾病ヨリ起ル者ヲ真ノ黄胖ト云テ可ナリ真
 ノ黄胖ハ土氣糞氣ニ中リテ發スルナリト古來ノ
 傳説ナレ^レ氏未必シモ然トセス粗食スル者ハ多ク
 ハ農夫ニシテ常ニ糞土ノ氣ヲ受ルユエ此説ヲ立
 タルナルヘシ又富貴ノ人ニ少ナク貧賤ノ人ニ多
 キハ常ニ粗食スル故ナルヘシ父母黄胖ヲ患フレ
 ハ子弟モ亦從テ同病ヲ發スル^レ有リ此ハ傳染シ
 タルニ非ス父母子弟ノ脾胃皆同質ニシテ俱ニ一
 鼎ノ粗食ヲ啖ヘハナリ

初發面色萎黄ニナリ四肢倦怠シテ產業ヲ廢シ病稍

増加スルニ及テハ脚弱ニシテ歩行モ不自由ニナ
 リ虚里及心下ノ悸動高ク人迎寸口等弦數ニナリ
 唇舌色ヲ失シ耳鳴眩運シテ僅ニ步履スル氏ハ總
 身悸動シテ呼吸促迫シ心下苦満スルヲ甚シク適
 坂ヲ登ラント欲スル氏ハ仰見テモ氣急ヲ發ス故
 ニ俗ニ此病ヲ坂下ト云フ爪甲薄ク色灰白ニシテ
 光澤ヲ失シ缺易クシテ長シ難シ常ニ生米茶葉黃
 土烟灰ヲ嗜ミ家人禁スル氏ハ匿シテ食スルニ至
 ル者アリ腹微満シテ兩脚微シク浮腫ス此病一旦
 ハ治シ易ク又再發シ易ク因循トシテ永ク愈ヘス

廢人ニナル者多シ或ハ水氣ニナリテ遂ニ死スル
 者亦尠ナカラス

治法此病粗食ヨリ發スル者ナレハ第一ニ粗糲ノ物
 ヲ食スヘカラス蕎麥温飽索麵麥飯芋魁ノ類ヲ嚴
 禁シテ米飯魚鳥都テ滋味ヲ食用シテ氣血ヲ榮養
 スヘシ此證ニ綠礬鐵粉ノ二味ヲ聖藥トス綠礬モ
 鐵氣ヲ含ミテアリ鐵ハ血液ヲ稠厚ニスル者ユエ
 血液調和シテ病自ラ治スルナリ脾病黃胖ニハ加
 味平胃散ニ鎮悸丸ヲ兼用トス若クハ綠礬精若ク
 ハ黃胖丸ヲ用フルモ奇驗アリ又鐵砂湯ヲ專用ス

ルモ全効ヲ收ルニ足レリ血證ヨリ發スル者ハ八珍湯連珠飲八味地黄丸ノ類ヲ撰用シ兼用ニハ鎮悸丸黃胖丸綠礬精ノ類ヲ撰用スヘシ

黃胖應用方

八珍湯外科正宗治潰瘍諸證調和榮衛順理陰陽滋養氣血進美飲食和表裏退虛熱為氣血俱虛之大藥也

川芎 白芍藥 當歸 熟地黄 人參

白朮 茯苓各一錢 甘草炙五分

右八味水煎服

黃胖丸家試治黃胖

厚朴 白朮 陳皮 神麩各十錢 綠礬炒四錢

大棗八十錢 甘草二十錢

右六味為散先擘大棗去核以醋烹如泥入諸藥末及糊丸梧子大

八味地黄丸 加味平胃散 連珠飲

鎮悸丸 綠礬精

タルハ意味ノアルヲナルヘシ仲景氏ノ書中凡ソ
 婦人ノ二字ヲ冒首ニ書タル條ハ婦人ニ限リタル
 病ニテ男子ニ無キモノヲ論ス此例ニ因テ之ヲ攷
 レハ消渴モ亦男子ニ限リタル位ノ病ニテ婦人ニ
 ハ甚稀ナル者ナリ藥室雜識中ヲ檢閱スルニ消渴
 ノ治驗數十人盡ク男子ニシテ婦人ノ消渴ヲ療治
 シタルヲ僅ニ二三人ノミ此病幼小ノ者ハ勿論弱
 冠前後ニモ患フル者ナシ男子三十歳ノ頃ヨリ發
 ス病因ハ腎虛ヨリ起ルト古ヨリ言ヒ傳ヘテアリ
 男子多房ノ者多ク之ヲ患ヒ又年四十前後腎氣漸

衰フルノ時ニ及テ發スル者ナレハ左云ナルヘシ
 又胃熱ノ致ス所ト為スハ大ナル誤ナリ此病ノ本
 因ハ蓋シ腎臟旺盛ノ致ス所ナルヘシ今云フ腎ハ
 軒岐以來所說ノ腎ニアラス西洋ニテ發明スル所
 ノ腎臟ナリ腎臟ハ小便ヲ分泌スルノ臟ナリ若シ
 病ヲ得テ旺盛ニナルハ小便ヲ分泌スルヲ急促
 ニナリ非常ニ小便ヲ滲出ス如何ホト飲食スルモ
 乍チ小便ニ從テ消スルユエ愈飲テ愈渴ス故ニ消
 渴ト云フ

此病不治ニシテ亦容易ニ死セス重キ者ハ四五年ニ

シテ死シ緩ナル者ハ八九年或ハ十餘年ニ及テ死
 ス又重キ者ハ四時共ニ愈ヘス緩ナル者ハ夏月ハ
 微シク愈テ冬時ニ及テ發ス古人ノ消渴ヲ宜病ト
 為シ脚氣ヲ壅病ト為シテ病因ノ異同ヲ論シタル
 ハ面白シ脚氣ハ夏發シ冬ニ及テ愈エ消渴ハ冬發
 シ夏ニ至テ略愈レハ二病ノ自ラ相反スルヲ見
 ルヘシ寒キ寸ハ小便宜通シテ壅閉スルヲ無シ暑
 時ハ小便壅閉シ易クシテ宜通シ難シ故ニ無病ノ
 人モ夏ハ小便少ク冬ハ小便多シ此理ヲ考テ消渴
 ノ冬時嚴寒ニ及テ發スルヲ知ルヘシ

初發ハ何ノ滯モナク渴シテ湯茶ヲ嗜ムノミ疾病
 氣ノ付ヌモノナリ日ヲ積ミ月ヲ累ルニ及テ愈渴
 シ夜中モ磁瓶ニ水ヲ入テ枕上ニ置キ後ハ磁瓶
 ニテハ間ニアハス手桶ヲ置クヤウニナル者ナリ
 小便モ數ニシテ且多ク快利スルヲ壅ヲ傾ルカ如
 ク飲ムニ從テ愈渴シ尿スルニ從テ愈飲ミ但湯茶
 ノミナラス又善饑テ食ヲ貪リ一次ニ飯五六椀汁
 モ四五杯啜リ三度ノ間ニモ種種ノ物ヲ食シ曾テ
 黑砂糖ヲ嗜ミ一次ニ一斤ツ、嘗タル者アリ小便
 ハ稠厚ニシテ或ハ赤濁或ハ白濁或ハ膏ノ如ク脂

ノ如キモノ尿桶ニ粘着シ桶底ニハ澱塗泥ノ如ク
 ニ溜ル者ナリ臭氣深ク甜味ノアル者ト見ヘテ犬
 ノ好テ舐ル者ナリ平人ノ小便ヲハ絶テ舐ルトナ
 シ常ノ小便ト殊ナルト是ニテ知ヘシ何ホト滋味
 ヲ食スルモ湯茶ヲ飲ムモ直ニ滲出シテ身體ヲ榮
 養スルト能ハス漸漸ニ羸瘦シ津液涸竭シテ口舌
 モ乾キ大便モ秘結シ皮膚モ枯腊シ面色萎黃或ハ
 黎黑ニ變レ或ハ陰痿或ハ脚弱或ハ白内障眼ヲ患
 ヒ或ハ癰疽ヲ發スルモノ徃徃コレ有リ病既ニ年
 久シク疲勞極ルニ及テハ多クハ腹脹滿シテ死ス

或ハ小便反テ不利ニナリ水氣ニ變シテ死スル者
 アリ

治法前件ニ論スル通り不治ノ病ナレ氏輕證ノ者ハ
 飲食ヲ節ニシ藥用ヲ怠ラサレハ百中二三ヲ救フ
 ヘシ初發ハ白虎加人參湯ニ宜シ多房失精及疝家
 常ニ腰痛ヲ患ヒ或ハ下焦虛冷少腹拘急シテ消渴
 ヲ發スル者ハ八味地黄丸奇驗アリ津液涸竭氣血
 耗散スル者ハ竹葉石膏湯麥門冬飲子天花散等ヲ
 撰用ス飽食シテ腹脹滿スル者ハ加味平胃散便秘
 腹脹スル者ハ調胃承氣湯麻子仁丸蘆薈丸ヲ撰用

ス蜜煎導灌腸法ヲモ亦施スヘシ常ニ牛酪ヲ服シ
葛粉湯葛粉水等ヲ飲モ又渴ヲ止ルノ一手段ナリ
消渴應用方

麥門冬飲子宜明論 治心熱移於肺膈消渴胸滿心煩津燥

引飲

麥門 人參 知母各一錢 生地八分

茯神七分 五味 瓜蒌 葛根各五分

甘草三分 竹葉

石十味煎服

天花散直指 治消渴

天花粉 地黃各一兩 葛根 麥門冬

甘草一分 五味子半兩 粳米百粒

右七味煎服

西洋治消渴方

阿芙蓉液三十滴 薄荷露水六十錢 雞子二枚用白

右三味混和分為二服一日盡之日加液至六十滴

八味地黃丸 白虎加人參湯 竹葉石膏湯

調胃承氣湯 麻子仁丸 加味平胃散 蘆薈丸

蜜煎導 牛酪 灌腸

Table with multiple empty columns, likely a grid for text or data.

白濁

漩濁

漏濁

便濁

白濁ハ小便白濁ノ省略ニテ單ニ濁トモ云又濁證ハ
云ノ虚弱ノ人及老衰ノ者ニ多シ膀胱病ニシテ尿
血ニ相類ス古人ノ説ニ便色ノ白キヲ虚寒ニ屬シ
赤ヲ實熱ト為スハ痢病ヲ便色ノ赤白ニテ寒熱ヲ
定ムルト同フシテ確實ノ論ニアラス白濁ハ皆虚
證ニ屬スル者ナリ其證小便白濁ニシテ米泔ノ如

ク又頻數ニナリ之ヲ浚器ニ溜ルトキハ須臾ニ桶
 面ニ凝結シテ膜ヲ結ヒ玲瓏トシテ石花菜ノ如ク
 又粘膠ニシテ斷シ易カラス桶底ハ塗ニナリテ水
 ニ胡粉ヲ解タルヤウニ見ユ或ハ凝脂ノ如キモノ
 ヲ小便ニ雜ヘ或ハ尿道ニ留滯シテ小便閉ニナリ
 困窘努カスレハ音ノスル程ニ射出スルナリ其形
 楕圓ニシテ雀卵ノ如ク或ハ扁平ニシテ革紐ノ如
 クニナリテ出ルモ有リ皆膀胱ニ病アリテ致ス所
 ナリ咽喉病ノ痰ヲ吐キ眼目病ノ眵淚ヲ流スニ同
 シ或ハ少腹及莖中ノ痛ムモアリ或ハ腰痛或ハ少

腹急痛シク愈サル片ハ少腹拘攣身體羸瘦シ
 テ遂ニ不起ニ至ル者アリ假令死セサルモ病身ニ
 テ世ヲ没ル者ナリ古人尿中ニ凝脂ニ似タル物ノ
 アルヲ見テ精ト為シ遺精ノ類ト為スハ大ナル誤
 ナリ白濁ハ自ラ白濁遺精ハ自ラ遺精ニシテ其病
 源ヲ異ニス

治法其因ハ異ナレ氏尿血遺精久淋消渴等ノ治法ヲ
 撰用スヘシ多年歴驗スルニ八味地黄丸ニテ治シ
 タル者多シ數血ヲ交ヘ下ス者ニハ猪苓四物合方
 ヲ與フヘシ小便頻數ニシテ腹力ヲ失スル者ハ補

中益氣湯ナリ寒疝ノ候アル者ハ烏苓通氣湯奇驗
アリ又温泉ニ浴シテ治シタル者モアリ諸治効ナ
キ片ハ清心蓮子飲分清飲桑螵蛸散遠志圓地黃圓
等ヲ試用スヘシ

白濁應用方

清心蓮子飲 直指 治心中客熱煩躁赤濁肥脂

蓮肉 茯苓 各一兩 益智 遠志 麥冬

人參 各半兩 石菖 車前 白朮 澤瀉

甘草 各三分

石灯心一握水煎

分清飲 直指 治思慮過度清濁相干小便白濁

益智 一兩 葶藶 石菖 烏藥 茯苓 各一兩

甘草 四兩

右鹽少許水煎

桑螵蛸散 直指 治心腎不和小便白濁或如米泔或為夢

泄

桑螵蛸 蒸過 略炒 遠志 石菖 人參 茯苓

當歸 龍骨 鼈甲 各半兩 甘草 二錢

右為末每服二錢人參茯苓煎湯調下

遠志圓 濟生 治因事有驚心神不定夜夢驚墮小便白濁

遠志

石菖

各二兩

茯苓

人參

茯苓

龍齒

各一兩

右為末煉蜜丸梧子大以辰砂為衣每服七十九熟湯下

地黄圓

集朱氏驗

治心腎水火不濟小便白濁

熟地

十兩

兔絲子

鹿角霜

各五兩

茯苓

栝子仁

各三兩

附子

一兩

右為末鹿角膠煮糊圓如梧子大每服百丸鹽酒下
八味地黄丸 猪苓湯四物湯合方 補中益氣湯

烏苓通氣湯

尿血

澀血

漩血

尿血ハ血淋ニ疑似シキ者ニテ世醫漫ニ血淋ト為テ
明辨セス然レ其因自ラ異ナリ尿血ハ膀胱病ニ
シテ血淋ハ尿道病ナリ其證モ尿血ハ痛ナクシテ
血出ツルヲ多ク血淋ハ澀痛甚シフシテ血出ツル
ヲ少シ得ト明察シテ誤認スヘカラス此證初發ハ
鮮血ノ出ルヲ或ハ一合或ハ二三合或ハ小便ニ混
シ或ハ小便ノ前後ニ血ノミ出テ或ハ膀胱ノ中ニ

凝滯シ或ハ尿道ニ壅塞シテ小便閉ニナルヲアリ
 困窘努力スル氏ハポイント音ノスル程ニ凝血ヲ射
 出スルヲ有リ或ハ楕圓或ハ扁長ニナリ之ヲ撮ニ
 粘膠ニシテ斷易カラス老人ニ多クシテ壯年ニ寡
 シ又下戸ニ寡クシテ上戸ニ多クシテ十五六日或ハ二
 三十日ニシテ一旦全快スレ氏必ラス再發スル者
 ナリ或ハ毎年發シ或ハ隔年ニ發スルモ有リ後ニ
 ハ毎月發スルヤウニナリテ自然ト羸瘦シ少腹拘
 急腰髓掣痛兩脚攣急等ノ諸證竝ニ起ル者ナリ又
 亡血スル意味ハ吐血衄血下血等ト同様ニエ次第

ニ黃胖ノ如ニナリ面色萎黃唇舌刮白虛里動悸呼
 吸促迫耳鳴眩暈等ノ諸證ヲ併發シ或ハ水氣ニ變
 シ或ハ癩ヲ發シ遂ニ死ヲ免レス

同藩ノ一士年六十一尿血ヲ患ヒ或ハ愈或ハ發スル
 一既ニ三年血出ルヲ愈多ク其毒尿道ニ波及シテ
 會陰ノ邊腫痛シ小便頻數ニナリ須臾モ安靜ヲ得
 ス適癩ヲ發シ精神恍惚トシテ或ハ健忘或ハ妄語
 或ハ困睡シテ覺ス舌上黑胎ニナリ手足ノ指黯赭
 色ニ變シ爪甲ハ藍色ニナリ飲食ヲ思ハス漸漸ニ
 疲勞シテ死セリ是ハ尿血ノ最モ變證ナル者ナリ

治法猪苓四物ノ合方ニテ一旦ハ治スル者ナレ氏全
 治スル者尠シ鮮血多ク出テ、止サル氏ハ芎歸膠
 艾湯凝血ノ數出ル者ハ犀角地黄湯ニ宜シ少腹虛
 冷小便頻數ニシテ血ノ偏虛スル者ハ八味地黄湯
 氣ノ偏虛スル者ハ補中益氣湯ニ宜シ此證疼痛ナ
 キヲ常トスレ氏稀ニハ莖中澁痛小便頻數ニシテ
 淋ノ如キ者アリ此ニハ龍膽瀉肝湯猪苓湯加木通
 車前子ヲ撰用スヘシ血虛シテ黃胖ノ如ニナル者
 ハ連珠飲ヲ與ヘ鎮悸丸ヲ兼用トス又黃胖門及瘍
 科秘錄脈痔ノ門ヲ參考スヘシ尿血ハ難治ニ屬ス

レ氏猶良方ヲ探テ回春ヲ要スルヲ仁術トス

尿血應用方

生地黄散 千金 治癰

生地黄 側柏葉 黃芩 阿膠 各等分

右四味水煎服

鹿茸散 準繩 治小便尿血日夜不止

鹿茸 生芩 當歸 各二兩 蒲黃 一合

冬葵子 四兩半

右為末每服三錢空心用温酒調服日二

玉屑膏 醫通 治氣虛不能攝血而尿血者

人參 黃芪

石等分為末，以白菜菹切片蜜炙，不時蘸末食之。

導赤飲 高階 治小便淋瀝，臍腹急痛，止作有時，膀胱有熱

所致者。

乾地黄 通草 梔子 當歸 芍藥 茯苓

滑石 竹葉 茵陳 甘草 燈心

右十一味，濃煎服，大便秘加大黃。

海金沙散 同 治淋疾，小便黃赤不利，莖中疼，血出或鮮或

黯，熱結下焦者。

海金沙 乾地黄 猪苓 澤瀉 茯苓 阿膠

滑石 通草 燈心

右九味，水煎服。

八味地黄丸 芎歸膠艾湯 猪苓湯合四物湯

猪苓湯加木通車前子 犀角地黄湯

補中益氣湯 龍膽瀉肝湯 連珠飲 鎮悸丸

内和録
卷十

自漢書

遺精

夢交

洩精

鬼交

失精

夢遺

漏精

遺精ハ本事方ニ出テ失精ハ金匱ニ出テ古名ナレ

氏今世ニ遺精ト通稱スルユエ之ヲ標シテ知リ易

カラシム漢說ニテハ腎病ト為セ氏腎ハ小便ノ出

内和録

自漢書

ル所ニテ精ノ出ル臟ニ非ス洋説ニ因ルニ膀胱ノ
 背面ニ精囊ト云フ者アリ即チ精臟ナリ遺精ハ精
 囊病ニシテ男子ニ多ク女子ニ少ナシ又少年ノミ
 ニシテ老人ニハ絶テナシ又無妻ノ者ニ多ク有妻
 ノ者ニ少ナク少壯ノ男女偶夢交ニテ遺精スルハ
 人人アルヲナレハ論スルニ及ハス疝家或ハ虚證
 ノ痔漏ヲ患フル者或ハ勞瘵或ハ諸大病後氣力ノ
 未復者ノ遺精スルハ精囊衰弱シテ知覺敏捷ニナ
 リ堅守スルヲ得サルナリ故ニ陰莖モ勃起セス
 夢交スルヲモ無ク適禪或ハ衣ニ觸ルキハ乍チ遺

精スル者ナリ是カ為ニ疲憊ヲ加ヘ惡候ト為ス又
 平人無病ニシテ遺精スルヲ一月ニ五六度或ハ數
 十回綿綿トシテ止マズ延テ二三年ニ至リ或ハ五
 六年ニシテ止マサル者アリ是ハ遺精スルヲ常ニ
 ナリテ精滿ルキハ即チ漏レ漏ル、レキハ隨テ滿ル
 モノトミヘタリ思ノ外氣力モ衰ヘス起居飲食共
 ニ變ハラサル者ナリ本人ハ遺失スル毎ニ惡症ナ
 ルヲ歎シ神思悒鬱トシテ樂マス百方療治スレ
 尺寸効ヲ奏セス自ラ死ヲ決スルニ至ル者アレ尺
 多房ニテ失精スルト異ニシテ大害ヲ為サス凡ソ

人他ノ疾病無ケレハ遺精ノミニテ死スル者ヲ見ス

治法多シト雖氏固精補腎ノ二法ニ過キス固精ニハ桂枝加龍骨牡蠣湯ニ宜シ補腎ニハ八味地黄湯ナリ先ツ此二方ニテ遺精ノ療治ハ足レリトスニ方ニテ治セサルモノハ自然ノ良能ニ非サレハ治セス然レ氏奇効人參湯ニテ効ヲ取リタルヲアリ又試用スヘシ痔漏虚勞等ニテ遺精スルハ補中益氣湯加山茱萸薯蕷五味子麥門冬ヲ與フヘシ疝ヨリ發スル者ハ烏苓通氣湯當歸四逆湯ヲ撰用スヘシ

又何方ヘモ三白圓ヲ兼用スルヲ宜シトス又ハ膠一灸スヘシ

遺精應用方

人參湯奇効醫述治虚勞失精便濁白濁形體枯瘦腰脚疼痛

人參 官桂 芍藥各三分 茯苓 龍骨

牡蠣 黃芪 甘草各半兩 酸棗 澤瀉各一分

半夏 二兩

石生薑水煎

三白圓濟生續方治遺精白濁滑泄盜汗等證

鹿角霜 二兩 龍骨 牡蠣 各一兩

右為末酒煮麩糊丸梧子大日以白湯下四十九

桂枝加龍骨牡蠣湯 八味地黄湯

補中益氣湯加山茱萸薯蕷 烏苓通氣湯

十全大補湯加山茱萸薯蕷 當歸四逆湯

八竅

固精帶

綿布ヲ二指橫徑ニ裂キ長サ三尺ニ斷テ小茴香ノ煎汁ニ浸シ乾カシテ甲端ヲ裂ク一三寸許リ卷キテ一軸トナシ卧スニ臨ンテ帶ノ乙端ヲ陰莖ノ本ニ當テ緊シク卷ヒテ甲端ニテ結束ス

強中病

強中病ハ病源候論ニ夫強中病者莖長興盛不痿精液自出千金方ニ強中之病者莖長興盛不交精液自出也本草綱目韭子條ニ玉莖強硬不痿精流不住時時如鍼刺捏之則痛其病名強中乃腎滯漏疾也トアレ氏格外ノ奇證ナレハ其言ノ妄誕ナラシトヲ疑フ一又シ後ニ七軒町額田屋五右衛門ニ年季奉公ニ住ミタル一少年瘡ヲ患ヒ寒慄シテ發熱スル寸ハ必ス陰莖勃起シテ乍チ自ラ感シ精液漏泄シテ後チニ初テ萎スル一ヲ得瘡ノ發スル毎ニ如此別ニ

失精ノ手當ヲセス柴胡桂薑湯ヲ用フルニ瘧ノ愈
ルニ及テ失精モ亦自ラ止リ凡ソ失精ハ盗汗ト同
シニシテ睡ラサレハ遺失セヌモノナリ寤メテ居
テ遺精スルハ尤モ奇證ナリ即チ強中病ナルヘシ
先哲ノ人ヲ誣サルヲ敬服スヘシ

汗證

自汗

盗汗

黄汗

陰汗

脚汗

汗ハ血中ヨリ分泌スル所ノ無用ノ敗液ニシテ表ヨ
リ泄ル、者ハ汗トナリ裏ヨリ泄ル、者ハ尿トナ
リテ二液同物ユエ夏ノ日ハ汗多クシテ尿少ク冬
ノ日ハ汗少クシテ尿多シ汗常ニハ漸泄スルユエ

氣ニ化シテ汗トナラス即チ蒸發氣ナリ若シ温疫
 瘧疾ノ類ニテ熱ヲ生シ或ハ勞力浴湯飲食等ニテ
 温氣ヲ添ルルハ急泄シテ氣ニ化スルヲ能ハス即
 チ汗ナリ汗尿共ニ本ハ敗液ナレ氏多ク出テ、止
 マサル寸ハ血液從テ損耗シ身體モ亦衰弱スル者
 ナレハ汗ノ多ク出ルモ尿ノ多ク通スルモ恐ルハ
 キノ症トナスヘシ江戸丸山ノ寺中ニ一老僧アリ
 曾テ會陰打撲ヲ患ヒ危篤ニ至リ幸ニ死ヲ免レタ
 レ氏尿道狹窄ニナリ常ニ小便快利セス後ニ瘡痕
 再發シテ小便閉ニナリタル時ガテ、テ、通ラス

シテ衆醫皆手ヲ束ヌ僧自ラ工夫シテ熱キ風呂ニ
 浴シ温覆シテ發汗スルヲ水ノ淋漓スルカ如クス
 ルニ小便汗ニ從テ散シ腹滿モ自ラ消シ常ニ復セ
 リ後ニモ小便閉スル寸ハ此法ヲ行テ窘迫ヲ免ル
 一年已ニ久シ老僧醫學ヲ知ラスシテ尿汗一物ノ
 理ヲ究メ發汗シテ尿閉ヲ救フノ術ヲ發明セシハ
 奇ト謂ツヘシ

自汗ハ發汗ノ藥ヲ用ヒスシテ自ラ出ル汗ナリ凡ソ
 温病瘧疾婦人血症其外ノ病ニモ熱ノアル病人ニ
 ハアルヲナリ虚實ノ分アリト雖氏皆熱ニ屬ス一

老人骨蒸熱ヲ患ヒ日ニ自汗ノ出ルヲ水ノ流滴ス
 ルカ如ク襯衣寢衾ノ類之カ為ニ濡レテ絞ルヤウ
 ニナリ遂ニ疲勞シテ床褥ニ卧スヲ久シ衆醫更療
 治スレ氏寸効ナシ只自汗ノ出ルノミニテ咳嗽氣
 急等ノ症ナシ纂芘扶羸湯ヲ與ヘテ全治セリ一農
 夫心氣病ヲ患ヒ漸漸ニ臆病ニナリ暗室ノ中ニ獨
 卧シ晴明ノ處ヘ出ルヲ能ハス若シ頭ヲ舉ル寸ハ
 眩暈シ手足ヲ被服ノ外ヘ出スハ惡風アリト謂
 テ起キサルヲ久シ格別ノ症モナケレ氏日夜自汗
 涿涿トシテ出テ遂ニ疲勞骨立シテ死セリ此二人

ハ自汗ノ異症ナリ

感冒ナトノ治シテ後起居飲食スル毎ニ自汗ノ出ル
 ハ汗ノ熱路ヲ成シタルニテ藥用ニ及ハス人ノ稟
 賦ニテ飲食ニ對スルハ必ス自汗ノ出ル者アリ
 嚴寒ノ時節ニ冷飯ヲ食スルモ自汗水ノ流滴スル
 カ如クニ出テ止マヌ者ナリ然レ氏微モ害ヲナ
 サス又年来何等ノ汗症ナク年三四十歳ニ及テ已
 上ノ汗症ヲ發スルハ惡候ト心得ヘシ多クハ一兩
 年ノ内ニ虚勞ヲ發スル者ナリ陰汗ハ陰囊ヨリ微
 汗漉漉トシテ出テ常ニ乾カス穢氣薰蒸シテ垢膩

多ク出テ擯鼻禪之カ為ニ濕リテ臭ク乾ク氏ハ鞭
ハリテ油紙ノ如クニ成ル者ナリ俗ニ之ヲ水疝氣
ト云フ然レ氏病ニ非ス脚汗ハ足心ヨリ脂ノ常ニ
出テ、襪ノ濕ルホトニ成ル者ナリ此ニ症ハ其人
ノ稟賦ニシテ藥ヲ服スレ氏治セス皆自汗ニ屬シ
テ可ナリ

盜汗ハ傷寒論ニ出ツ素問ニ寢汗ト云フ病人睡ル寸
ハ必ス汗出ル一水ノ流ル、カ如クニシテ襯衣ハ
勿論寢衾蒲團マテモ濡ル者ナリ尤モ惡候ニシテ
止ミ難シ第一勞瘵或ハ流注附骨疽等ノ膿ノ多ク

出テ、止マサル者或ハ諸病久シク愈ヘスシテ虚
脱スル者ハ必ス此症ヲ患フ蓋シ腠理衰弱シテ若
シ睡ル寸ハ守衛ヲ失ヒ汗ノ自ラ出ルナリ流注ノ
未タ潰ヘサル前ニ盜汗ノ出ルハ膿已ニ成ルノ候
ニテ針ヲ刺シ膿ヲ去ル寸ハ盜汗モ亦從テ止ム者
ナリ微疫或ハ流行ノ風邪等ノ熱稍減スルニ及テ
盜汗ノ出ルハ邪自ラ去ルノ候ニシテ却テ吉兆ト
為ス人無病ニシテ常ニ盜汗ノ出テ、少モ疲勞ヲ
覺ヘサル者アリ是ハ其人ノ稟賦ニシテ少モ害ヲ
為サス誤テ藥ヲ與フヘカラス

黄汗ハ金匱ノ黄疽篇ニ出ツ黄疽ヲ患フル者汗出ル
 寸ハ白キ襯衣或ハ犢鼻褌等ノ黄色ニ染ムルヲア
 リ即チ是ナリ人無病ニシテ夏月暑時ニ至リ汗出
 ル寸ハ浴衣涼衫ノ黄色ニ染マル者アリ其人ノ稟
 賦ニシテ害ヲ為サス血統ヲ引ク者ニテ父子或ハ
 兄弟共ニ如此者アリ此症黄疽トハ異ナレ氏膽汁
 ノ所致ナルヘシ膽汁ハ常ニ乳糜ニ從テ血中ニ入
 ル者ナレハ其人ノ資質ニヨリテ汗ニモ混スル
 アルヘシ

治法諸汗俱ニ諸病ノ兼症ナレハ詳ナルヲハ各病ノ

門ニ論ス然レ氏又本病ヲ置テ專ニ汗ヲ治スル
 アリ表虚ノ自汗ニハ桂枝加附子湯桂枝加黄芩湯
 柴胡桂枝湯桂枝加龍骨牡蠣湯ヲ撰用スヘシ虚熱
 ノ盗汗ニハ柴胡桂枝乾薑湯補中益氣湯當歸六黃
 湯ヲ撰用スヘシ血虚スル者ニハ十全大補湯ヲ與
 フヘシ又諸汗ニハ三因牡蠣散得効大建中湯ヲ試
 用スヘシ

汗症應用方

牡蠣散 三因 治諸虚不足及新病暴虚津液不固體常自
 汗夜卧即甚久而不止羸瘠枯瘦心忪驚惕

本草綱目 卷十

牡蠣、麻黃根、黃芪各一兩、小麥百粒

石四味煎服

大建中湯得効 治虛熱盜汗

黃芪、遠志、當歸、澤瀉各三兩、芍藥、龍骨

人參各二兩、甘草一兩、生薑

石九味煎服

桂枝加附子湯、桂枝加黃芪湯、柴胡桂枝湯

桂枝加龍骨牡蠣湯、柴胡桂枝乾薑湯

補中益氣湯、當歸六黃湯

雷震死

雷震死ハ魘死、縊死、溺死ノ類ノ如ク救急ノ治法ノ無クテハナラス、ナレバ諸方書ニ概見セス、唯洗冤錄ニ雷震死ノ名ヲ載テ其形狀ヲ詳ニセリ、然レバ亦治法ヲ述ヘス、此症多クハ卒死スル者ナレバ稀ニ蘊生スル、ナリテ既ニ治驗ヲ瘍科秘録中ニ載ス、故ニ治法ヲ研究シ、又避電ノ法ヲ豫知スルヲ專要トス

避電ノ法ヲ知ルニハ先ツ雷電ノ實理ヲ明辨スヘシ、玄中記ニ雷雖陰陽二氣激薄有聲、實有神物司之ト

兩科秘錄 卷十

〇三六

神醫秘傳

云七又李時珍本草綱目ニ雷神ノ名アリ古今雷
ヲ神ニ託スルユエ紛紛トシテ詭怪ノ說競々興レ
リ霹靂礮雷鎗雷鑽雷斧ノ如キモ固ヨリ傳會ニ屬
ス王充力論衡ニ世人雷公ノ連鼓ヲ脊負ヒ推ヲ以
テ之ヲ打ツノ圖ヲ畫クヲ云ヒ本邦ニテ雷獸ヲ
説クニ至テハ妄誕モ亦甚シ畢竟雷ノ何物タルヲ
ヲ知ラサルユエナリ特穀梁傳ニ陰陽相薄感而為
雷ト云ヒタルハ略其理ヲ得ルニ近シト雖氏其言
詳ナラス今西洋ノ說ヲ閱ルニ雷ハ天地間ノ氣類
ニシテ寒暑風雨等ニ異ナラス此氣ヲ名ツケテ越

歷ト云フ即電ナリ萬物皆此氣ヲ備ヘサルハナシ
然レ凡物ニ因テ極メテ多キ者アリ極メテ少ナキ
者アリ電苟モ天上ニ閃動スル寸ハ越歷ノ少キ物
ニ傳ヘテ多キ物ニ傳ヘス越歷ノ少キハ金銀銅鉄
鉛木水炭冰雪ノ類ナリ多キハ琥珀玻璃硫黃松脂
玉石皮絲黑猫ノ類ナリ人モ亦越歷少フシテ尤モ
傳ヘ易シ少キ所ヘ傳フルハ平均ヲ求ルニテ多キ
所ヘ傳ヘサルハ已ニ平均ヲ得ルユエナリ電機器
ノ鏈ヲ把ル者若シ黑猫ヲ懷中スレハ黑猫ノ越歷
人身ニ入テ已ニ平均ヲ得ルユエ少モ閃動セス本

邦ニテ航海ノ梢工黒猫或ハ三駁猫ヲ養テ避雷ト
為スハ自然ニ窮理ヲ得ルト謂フヘシ前項ノ理ヲ
會得スル寸ハ雷ヲ避ルノ難カラス

論語ニ迅雷風烈必變スト云ヒ禮記ニ若有疾風迅雷
甚雨則必變雖夜必興衣服冠而坐スト云ヒタルハ
實ニ避電ノ良策ニシテ感服スヘシ凡ソ雷ニ擊ル
ルハ犯シテ外ニ出ル者ナリ謹テ内ニ居ル者ハ決
シテ擊ル、トナシ屢人家へ落ルトアレ氏人ニハ
怪我ノ無キモノナリ近年府下ニ雷ノ落ルト尤モ
多ク人ノ擊ル、モ亦尠カラス青柳村ニ一男子雷

雨ノ日檐前ニ出テ、石臼ノ目ヲ切ルニ乍チ擊レ
テ死セリ又馬口勞町ニ一夫走テ隣家へ到ラント
欲スルニ路上ニテ擊殺セラレタリ又一扁舟旅客
ヲ載セテ那珂河ヲ下ルニ雷帆檣ニ落チ舵師ハ擊
タレテ死シ其篷底ニ居ル者ハ皆免レタリ又賣飴
者二人中河内村ノ渡頭ヲ過ルニ雷二人ノ間ニ落
テ甲ハ卒死シ乙ハ余力療治ヲ以テ回生セリ又下
江戸村ノ一農夫馬ヲ那珂河ニ洗テ歸ルニ人馬共
ニ擊タレテ死セリ又杉崎村ノ一農夫雷ノ催スニ
尚耕シテ輟ス乍チ擊タレテ卒死セリ又迅雷ノ時

大串村ノ少年二人耦耕シテ輟ス二人共撃タレテ
死セリ又商旅落合村ヲ過キルニ雷落テ甲ハ卒死
シ乙ハ昏沈トシテ人事ヲ省セサルヲ卒中風ノ如
ク村醫ノ療治ヲ以テ蘇生セリ又瑞龍山御廟番二
人相伴フテ池上ニ釣ヲ垂レ雷ヲ大樹ノ下ニ避ル
ニ雷落テ二人偕ニ死セリ此外ニモ雷震死者多シ
ト雖氏今僅ニ二三ヲ舉テ戒ト為スノミ

西洋ニテハ近来避雷器ヲ發明セリ其法屋上ニ長柱
ヲ建テ柱頭へ尖銳ナル鉄帽ヲ接シ鉄帽へ鏈ヲ結
ビ斜ニ下垂シテ深ク地下ニ埋ミ或ハ池水へ投入

シ置ク寸ハ雷徐徐ニ鉄帽尖へ傳へ鏈ニ從ヒ地下
或ハ池中へ下リ屋ヲ碎キ人ヲ撃ツノ害ナシ又厚
ク大ナル鉛片ヲ造リ屋上ヲ蓋ヒ其一端ヲ水へ達
シ置ク尺ハ雷鉛片へ傳へ水中へ下ツテ害ヲ為サ
ズ雷一旦物ヲ撃ツ寸ハ自ラ消散シテ再ヒ外へ傳
フルヲ無シ人家ニ落チ柱ヲ碎ク寸ハ其氣消散シ
テ其近クニ居ル者モ害ヲ受ルヲ無シ世人ノ蚊帳
ヲ張リテ雷ヲ避ルハ亦一策ナリ假令雷柱或ハ裏
板等へ落ルモ再ヒ蚊帳へ傳フルヲ能ハス又麻絲
へハ越歴ノ傳へヌモノナリ

雷ニ撃レタル者ハ皮膚黒色ニナリ火薬ニテ燒キタルヤウニナリ微モ損傷ノ痕ナシ暗ニ火薬ノ臭氣ヲ覺ユ頭髮及ヒ陰毛マテモ焦ル者ナリ衣服ハ破裂シ或ハ焦爛スルモアリ幸ニ蘊スル者ハ發熱脈浮緊口舌乾燥煩渴引飲驚悸譫語等並起テ燒痕ハ悉ク水泡ニナリ焮熱腫痛スルハ火傷ニ同シ數日ヲ經テ水泡自ラ潰ヘ糜爛シテ膿水ヲ出シ腫痛自ラ消シ熱モ從テ解シ思ノ外早ク愈ルモノナリ治法呼吸已ニ絶シ無脈ノ者ハ絶テ手段ナシ若シ面色赤ク呼吸未タ絶サル者ハ先ツ活術ヲ行ヒ三黄

湯ヲ與ヘ回生散ヲ兼用スヘシ精神常ニ復スル寸ハ四順清涼飲ヲ與フ大熱煩渴スル者ハ紫胡白虎合方ニ宜シ紫雪モ兼用スヘシ傷痕ヘハ中黄ヲ貼ス

四順清涼飲 三黄湯 紫胡白虎合方 回生散
紫雪 中黄

伏氣死

伏氣ハ智井土窖麴窖_{イハテ}_{イハテ}_{イハテ}坑_{イハテ}巖洞石_{イハテ}坑等ニ生スル惡
 氣ナリ西洋ニテ之ヲ窒素ト云フ此氣ニ中ル寸ハ
 呼吸窒塞シテ悶絶ス卒死スル者モアレ氏速ニ晴
 朗ノ地ニ出シ風氣ヲ受ル寸ハ多クハ蘊生スル者
 ナリ瘵井ニ入ルニハ先ツ羽毛ヲ下シテ伏氣ノ有
 無ヲ驗スヘシ直ニ下ル寸ハ毒ナシ若シ旋轉浮游
 シテ速ニ下ラサル者ハ毒アリト知ルヘシ毒アル
 寸ハ酒或ハ酢ヲ井中へ頻リニ注ク寸ハ其毒自ラ
 消散スルモノナリ土窖麴窖へ入ルニ燈或ハ蠟燭

ノ火ノ減ルハ伏氣ノ満チタルナリ若シ之ヲ犯ス
寸ハ必ス卒倒ス

金町ノ一賈^{アキ}暨夏日^{アキ}醃魚ヲ庭前ニ曝スニ狡犬之ヲ盜

ミ去ルヲ逐フニ隣家ニ廢井アリ稗ヲ棄テ、已ニ

過半ニ填ツ賈暨誤ツテ此中へ投シ卒倒シテ人事

ヲ省セス隣人之ヲ救ント欲シテ井中へ入ルニ又

卒倒セリ群聚スル者相議シテ楷梯ヲ下ケ一傭夫

繩端へ鈎ヲ結ヒタル物ヲ以テ井底ニ下リ二人ヲ

鈎ニ繫ケ井外ノ衆人ニ挽キ出サシメ醫治ヲ請フ

ニ二人共ニ蘇活セリ又先年馬口勞町ニ火ヲ失ス

ル者アリ風急ニシテ家財ヲ外へ移スニ遑アラス

直ニ井中ニ投シ明日火収ルニ及テ傭夫ヲシテ井

底ニ下リ家財ヲ擧ケシムルニ寂然トシテ聲ナシ

主人怪テ別ニ一傭夫ヲシテ見セシムルニ先ニ入

タル者昏迷シテ死スルニ似リ携テ井外ニ出シ冷

水ヲ喫テ蘇セシトアリ一ハ井中ニ棄テタル稗ノ

腐敗シテ伏氣ヲ生シ一ハ火ノ井邊ヲ燒テ伏氣ヲ

生シタル者ナルヘシ又海濱ニテ海^イ鯤ヲ煮テ油ヲ

取り其餘水ヲ煮汁ト謂テ巨槽ニ貯ヘ農家之ヲ買

テ糞ト為ス農夫二人那珂湊ニ到テ煮汁ヲ買ヒ甲

夫先ツ槽外ニテ汲ミ汁稍少キニ及テ槽中ニ入ル
ニ卒倒セリ乙夫大ニ驚キ倉皇シテ又槽中ニ入テ
之ヲ救ント欲スルニ亦卒倒セリ傍人遽ニ鉤ヲ把
テ挑ケ出シ醫藥ヲ加ヘタレ氏二人共ニ蘇活セス
是ハ伏氣ノ甚キ者ナルヘシ

治法第一風氣開達ノ所へ出シ速ニ冷水ヲ其面ニ嚙
ヘシ若シ醒サル氏ハ燒酎ヲ冷水ニ和シテ與フヘ
シ若シ之ニテモ醒サル寸ハ吐酒石三四厘ヲ與フ
吐スル寸ハ必ス蘇スルモノナリ又法雄黄ノ末少
許ヲ冷水ニテ服ス又法酢ヲ全身ニ嚙ヘシ醒テ後

尚了了タラサルモノハ不換金正氣散ニ宜シ

伏氣死應用方

不換金正氣散 雄黄 吐酒石 酢 燒酎 冷水

Blank page with vertical lines for text.

凍死

凍死ハ越後越中等ノ寒國ニ吹雪トテ殘雪ヲ疾風ニ
テ吹キ揚ケルヲアリ旅人之ニ遇フ寸ハ道ヲ失シ
後ヘモ先ヘモ行クヲ能ハスシテ凍死スルヲアリ
天保癸巳ノ冬大雪ノ降リタルヲアリ我國ハ大雪
ノナキ所ユエ人人怖レスニ旅行シ途中ニテ死シ
タルモノ多シ雪中ノ旅行ハ禁スヘキヲナリ發狂
ノ者ヲ囿牢ヘ容ル、ニ冬時嚴寒ト雖被服寢余
ヲ破裂シ去ツテ寒威ヲ避ケス凍死スルヲアリ家
人モ初ハ介抱スレ氏後ニハ厭苦シテ看顧セス何

時ニ死シタルモ知ラスニ居ルコトアリ其子弟妻妾
 ニ在テハ殘忍ト謂ツヘシ漸漸ニ凍死シタルハ決
 シテ活セス冬時井ニ投シ又川ニ溺レテ遽ニ凍ヘ
 タルハ其狀一身冰冷シテ四肢強直唇舌刮白ニナ
 リ脈伏シテ應セス爪甲藍色ニ變シ昏沈シテ人事
 ヲ省セス已ニ死スルニ似タレ氏尚牙關緊急シテ
 鼻中ヨリ氣息髣髴トシテ出ルモノハ一旦ノ閉塞
 ニテ眞ニ死スルニ非ス速ニ鹽ヲ炒テ綿布ニ包ミ
 大サ掌ノ如クニシ虚里ノ上ヲ温ムヘシ冷ル寸ハ
 更換シテ數回ニ至ル寸ハ虚里ノ動氣稍復シテ脈

モ從テ出ツ脈出ル寸ハ身體モ自ラ回陽ス若シ鹽
 ナキ寸ハ灰ヲ炒テ温ムルコト前法ノ如クシ内藥ハ
 甘草乾薑湯四逆散ヲ撰用スヘシ漸ク醒テ人事ヲ
 覺ヘ眼ヲ開キ手足ヲ動揺スルニ至ツテハ温酒或
 ハ生薑湯或ハ稀粥ヲ少シツ、與フヘシ若シ狼狽
 シテ火爐火閣ノ類ニテ急ニ温ムル氏ハ冷熱相搏
 ツテ死ス

凍死應用方

甘草乾薑湯 四逆散 温鹽 温灰

内和利金
卷十

自筆評藏

驚怖死

驚怖死ハ病ニテ精神衰弱ニナリ及ヒ性法ニシテ萬事ニ感觸シ易キ者卒ニ大聲ヲ聞キ適異物ヲ見ル寸ハ大ニ驚キ甚夕怖レ卒倒シテ四體厥冷シ兩手握拳シテ死ス此症多クハ回祿ニ遇フテ發シ或ハ雷ノ落チタルニテ發シ或ハ遽ニ凶事ヲ聞テ發スルモノナリ蓋シ腦病ニシテ癇ニ屬ス其劇シキモノハ卒死シテ回復セズ稍緩ナルモノハ一旦悶絶スレ氏漸醒ルニ及テ驚悸搖擲譫語妄言等並起テ癇ノ諸症ヲ備フルモノナリ癇ニ定マル寸ハ多ク

内和利金
卷十

〇三六

自筆評藏

死ヲ免ル、モノナレ氏亦死スルモアリ治法ハ
先ツ天樞へ活ヲ入レ蘓香圓ヲ水ニテ解キ若クハ
皂莢若クハ半夏若クハ雄黃等ノ末ヲ鼻中へ吹ク
ヘシ
安政中江戸大地震ノ時火燒覆壓打撲損傷ニ非スシ
テ死スルモノハ皆驚怖死ナリト云フ余力隣ニ孀
婦アリ舊衣ヲ賣ルヲ業トス日ニ戸ヲ鎖シテ隣里
郷黨ノ間ニ奔走ス一夜祝融ニテ其家ノ灰塵ト為
ルヲ途中ニテ聞キ大ニ驚キ乍チ悶絶シ癩症ヲ
發シテ死セリ其他聞見スル所枚舉ニ遑アラス春

臺文集ニ傭夫ノ妻驚死ノ事ヲ載タリ今抄シテ此
ニ附ス金杉之民多業鑿井者其一人名曰彦又一人
名曰萬東叡山下紫蓮池南邊中坊有買家號八幡屋
享保戊申七月僱工役於金杉里令鑿井於其宅中於
是工彦率衆傭夫赴焉數人更掘其地陂陀北高南下
掘之入常所而得泉焉月三日將下榦工彦先入而視
其可否忽岸崩工彦身為所壓頭面猶未沒也衆傭夫
臨而見之遽呼之曰彦也無死今援之工彦自下應之
曰可衆欲援之而未得其方頃之岸又大崩工彦遂死
主人命傭夫趣赴其家一傭夫走還金杉里而問鑿井

4

者家又一人指工萬家以告之其人輒造其家於戶外
 呼曰鑿井者壓死干時工萬不在其妻產後數旬猶病
 在牀聞之大驚俄而血氣逆上暈倒不省人事鄰人走
 請醫救之灌以藥水既醒精神恍惚亂言妄語醫治不
 効又五日遂死工彥之死固不足怪也工萬之妻因人
 誤告以致死是何不幸也
 人夜中廁ニ登リ疾風乍干燈ヲ滅シ或ハ暗夜ニ郊野
 ヲ行キ路ヲ失シ誤テ廢寺古墳ノ間ニ入り妄想シ
 テ鬼物ヲ認メ悶絶スルモノヲ中惡ト云フ是モ亦
 驚怖死ノ一症ナリ

自縊死

人志ヲ得スシテ念恨憂悶ニ堪ヘス或ハ貧窶ヲ苦ミ
 遂ニ繩ヲ以テ頸ニ繫ケ屋梁或ハ樹枝ニ懸リテ死
 スルモノアリ名ケテ自縊死ト云フ必ス頸長ク延
 テ俯シ兩鼻孔ヨリ涕洟ノ垂ルモノナリ既ニ呼
 吸ノ絶シテ時ヲ移スモノハ決シテ蘇活スルヲナ
 シ病源外臺等ニ旦至暮雖已冷必可活ト云ヒ或ハ
 心下若微温者一日以上猶可活ト云ヒタルハ無誓
 ノ臆說ニシテ信スヘカラス若シ早ク見知シテ救
 フ寸ハ萬ニ一生ヲ得ルヲ無シト謂フヘカラス救

附錄

卷十

〇三六

附錄

縊ノ法病源肘後千金外臺等ニ載スル所極メテ多
 シ然レ氏其術迂遠ニシテ簡便ナラス今諸法ヲ要
 略シテ私ニ其法ヲ定ム先ツ繩ヲ截斷スルヲ禁
 シ緊シク抱テ徐徐ニ繩ヲ解キ卸シテ仰臥セシメ
 吮嚙ノ換轉ヲ揉正シ其心胸ヲ兩手ニテ按定シ或
 ハ摩挲シ一人脚ヲ以テ其兩肩ヲ踏ミ手ヲ以テ其
 髮ヲ挽ク一弦急ニシテ縱緩ナラシメス又一人臂
 脛ヲ摩將シテ且ツ屈伸シ又一人蘆管ヲ以テ其兩
 耳ヲ吹キ力疲ル寸八人ヲ易ヘテ吹カシメ皂莢末
 ヲ兩鼻孔ニ吹クヘシ縊死ハ固ヨリ難治ノモノナ

レ氏一應ハ此術ヲ試ミルヲ仁術トス

小兒誤テ梅子櫃子ノ類ヲ吞ミ咽喉ニ哽噎シテ氣道
 ヲ壅閉シ呼吸絶テ卒死スルヲアリ是モ縊死ト其
 理ヲ同フス溺死ハ水ヲ喫シテ呼吸ノ絶スルモノ
 ナレハ亦縊死ニ異ナラス西洋ニテ溺死ヲ救フニ
 氣道ヘ孔ヲ穿テ管ヲ挿シ一呼一吸スルヲ數回ニ
 至リ肺ノ囊籛ヲ起シ心モ鼓動ヲ發シテ回春セシ
 ムルノ法アリ是ニ由テ之ヲ考フルニ自縊菓哽ノ
 類ニテ呼吸ノ絶スルモノヘモ此術ヲ施ス寸ハ亦
 奇驗ヲ得ルヲアルヘシ肘後療自縊死方徐徐抱解

其繩不得斷之懸其髮令足去地五寸許塞兩鼻孔以
 蘆管內其口中至咽令人噓之有頃其腹中籠籠轉或
 是通氣也其舉手撈人當益堅捉持更逆噓之若活了
 能語乃可置ト云ヘリ此術西洋救溺死ノ法ニ暗合
 シテ肺ノ橐籥ヲ起スノ手段ナレハ必ス効アルヘ
 シ宜ク試ムヘシ

本草綱目 卷十

自準亭

鬼魘

鬼魘ハ又卒魘ト云フ人睡中卒ニオソハレテ吃吃ト
 シテ聲ヲ發スルヲナリ覺メスシテ死スルヲ魘死
 ト云フ其人多クハ手ヲ胸上ヘ載テ居ルモノナリ
 傍人早ク喚ヒ起ス寸ハ乍ナ醒ルモノナリ蓋シ惡
 夢ノ類ナリ病源千金外臺等ノ說ニ人眠睡スル時
 魂魄外ニ遊テ鬼邪ノ為ニ魘屈セラレ其精神弱キ
 者ハ寤ルヲ得スシテ氣絶シ久キ寸ハ遂ニ死ス
 ルト云ヒ又魘死ノ者ヲ見ルニ燈火ヲ以テ照シ或
 ハ其人ヲ近ツキテ急ニ喚フ寸ハ多クハ人ヲ殺ス

本草綱目 卷十

〇四

自準亭

ト云々氏果シテ然ルヤ否ヲ知ラス予未夕嘗
 テ魘死スル者ヲ見ス人機嫌能寢子枕ヲシタルマ
 マニテ死シ傍ニ卧シタルモノモ之ヲ覺ヘス翌日
 ニ及ヒ其死スルヲ見テ驚クアアリ又寢テ後鼻息
 齁齁トシテ高ク起リ傍人其非常ナルヲ見テ急ニ
 喚ヒ起セ氏遂ニ寤メスシテ死スルアアリ是ハ白
 晝ニ頓死スルト同フシテ蓋シ頭腦ノ閉塞ナリ亦
 癩ニ屬ス所謂魘死ハ此症ト同フシテ即睡中ノ頓
 死ナリ鬼魘ハ惡夢ニシテ魘死ト其因ヲ異ニシ決
 シテ死スヘキモノニ非ス

鬼魘ノ治法雄黄若クハ皂莢若クハ半夏ノ末ヲ鼻中
 へ吹き或ハ管ヲ以テ兩耳ヲ吹クノ療法アリト雖
 氏喚起スルノ一聲ニテ足りトス睡中ノ頓死ハ救
 法ナリ尚心胸ノ温カナルモノハ天樞ノ活術神闕
 ノ灸燭ヲ試ムヘシ

内科秘録卷之十

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

